

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 219

事務事業名	高齢者ふれあいバス社会実験事業
-------	-----------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	福祉保健部		
課名	長寿介護課		
課長名	山下 志朗	内線	89-100
担当者名	川嶋 富久	内線	89-201

基本目標		健康でいきいきと暮らせるまち
政策	020202	高齢者が暮らしやすいまちづくり
施策		高齢者の生きがいづくりと介護予防の推進
関連施策		

会計	一般会計		
款	3	民生費	
項	1	社会福祉費	
目	2	老人福祉費	
事業コード	140000	高齢者ふれあいバス事業	

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者)	誰(何)に対して事業を行うか			70歳以上の市民かつ、介護認定を受けておらず、6か月以上介護保険料の滞納がない方。		
意図	対象をどのような状態にしたいか			高齢社会の急速な進展を踏まえ、高齢者が市内を運行するバスを利用する際のバス運賃の一部を助成することにより、高齢者の積極的な社会参加の促進と健康づくりを推進するとともに、今後の公共交通ネットワークの再構築に向けた市内路線バスの在り方を検証するため、高齢者外出支援型バス利用料金助成事業(社会実験)を実施する。		
事業概要	意図を達成するために実施することは何か			(1)助成額 対象者1人当たり年間3,000円を助成 (2)助成方法 スマートカードに対する助成券を交付し、希望者は県営バスにおいてチャージ券と引き換えにカードに入金 (3)実験検証 高齢者の外出機会の創出による介護予防効果や高齢者の外出手段におけるバス利用のニーズの把握、バス利用助成によるバス対策補助金の縮減効果等の事業効果の検証		
事業期間	平成 27 年度	～	平成 28 年度	実施方法	直営、補助	
根拠法令、要綱等	大村市ふれあいバス事業実施要綱					
国・県補助事業に係る本市単独施策	無					

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 年間補助申請件数	計画値			6,646	6,646	
		実績値	件			4,701	
	70歳以上の自立高齢者×申請率56%(通算)	達成度	%			70.7%	
活動指標	② 年間補助金額	計画値			19,938	19,938	
		実績値	千円			14,230	
	スマートカードチャージ料(通算)	達成度	%			71.4%	
成果指標	① 高齢者の外出機会の増加	計画値			100	100	アンケート未実施
		実績値	%				
	補助申請者に対するアンケート調査による	達成度	%			0.0%	
	②	計画値					
		実績値					
		達成度					

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	0	0	20,630	9,242	0	0	0	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源			20,630	9,242				
② 人件費(千円)	0	0	1,764	1,899	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)			0.14	0.16	チャージ料の助成 モニタリングの実施			
時間外勤務(時間)			111	90				
嘱託等人数(人)			0.30	0.30				
フルコスト(①+②千円)	0	0	22,394	11,141				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	バスカードの交換率を上げるため、広報おおむらなどでの周知を行った。 (アンケートは平成29年3月実施予定)
事業が抱える問題・課題等	バスカードへの交換率が低い。(平成27年度末での交換者4851名、交換率40.5%)

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市内の交通体系の再整備に向け、高齢者のバス利用のニーズや動向の実態を把握する事は重要である。また、高齢者の介護予防を効率的に進める上で、外出支援と生きがい活動の効果を検証する必要がある。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	高齢者の社会参加の促進及び市内バス路線整備の方向性の検討は、市が主体的に取り組むべき課題である。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	高齢者の外出機会の増加がもたらす生きがいづくりの促進の効果を検証する事は、今後の介護予防のあり方の検討材料として活用できる。						
効率性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	高齢者の生きがい対策を進めることで、高齢者の介護予防が推進される。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	助成対象者の住所地に応じて助成単価を設定するなど、効率的な事業の実施に努めるとともに、スマートカード利用分がバス対策補助金の縮減となる制度である。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	月1回程度の利用を想定し、補助率1/2としている。						

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】 今後の方向性 終了

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	28年度終了。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。